
横浜地方合同庁舎(仮称)整備等事業
に伴う横浜市中区新港1-6-2の
試掘調査 調査概報

平成29年6月

神奈川県教育委員会 教育局 生涯学習部 文化遺産課

横浜地方合同庁舎(仮称)整備等事業に伴う
横浜市中区新港1-6-2の試掘調査 調査概要

遺跡の名称	周知外(新規登載:横浜市中区No.33)
種 別	その他の遺跡(港湾施設)
調査期間	平成29年5月15～18日
所在地	横浜市中区新港1-6-2
調査機関と 調査担当者	教育局 生涯学習部 文化遺産課 埋蔵文化財グループ 主幹 恩田 勇
調査立会者	国土交通省 関東地方整備局 営繕部 調整課 特別事業調整第二係長 平野裕丈
調査協力者	公益財団法人かながわ考古学財団 調査課長 植山英史
調査面積	32.2㎡
発見遺構	発電所(煉瓦造)1棟・上屋(コンクリート・煉瓦積基礎)1棟・ 道路(コンクリート造)1箇所・物揚場付帯階段(石造)1箇所・ 下水道管1条・電線管1条〔近代〕
出土遺物	土器・陶磁器・タイル・ ^{がいし} 碇子・ガラス製品・鉄製品(釘・ ^{かすがい} 銚・板)・ 銅貨・和瓦・煉瓦〔近代〕
遺跡の時期	近代
取 扱 い	本発掘調査が必要

横浜地方合同庁舎(仮称)整備等事業に伴う 横浜市中区新港1-6-2の試掘調査 調査内容

1. はじめに

本試掘調査は、国土交通省関東地方整備局営繕部調整課による横浜地方合同庁舎(仮称)整備等事業の対象範囲のうち試掘調査が実施可能な範囲について、埋蔵文化財の所在状況の確認を依頼されたことから実施したものである。

今回の試掘調査にあたっては、調査が実施可能な範囲のうち近代(明治・大正時代)の新港埠頭港湾施設の所在推定箇所(平成28年12月26日付け文遺第597号「埋蔵文化財の所在の有無について(回答)」)に対して4.0×1.0mのトレンチ(試掘溝)を7箇所、4.2×1.0mのトレンチを1箇所の計8箇所設定し、調査を実施した。

2. 調査概要

○No.1トレンチ

調査規模 4.0×1.0m

掘削深度 約0.85~1.1m

調査結果 現地表下約0.45~0.7mまでは近年の盛土整地層(1層)で、この直下に関東大震災直後に形成されたと考えられる層厚約0.15~0.25mの盛土整地層(2層)の堆積が認められた。盛土整地層(2層)直下には、煉瓦片・煉瓦塊が主体となる層厚約0.15~0.4mのガレキ整地層(3層)の堆積が認められた。ガレキ整地層(3層)直下の現地表下約0.9m(標高約2.36m)以深には、発電所内部と考えられる煉瓦造モルタル塗りの床面が検出された。調査区南東側一段高い面には鉄製角柱痕が約0.4m間隔で3箇所認められる。また、調査区北西側の床面はV字状に陥没しており、下部に地下施設が所在している可能性がある。

遺物は、整地層(2・3層)から近代の陶磁器・タイル・磚子・ガラス製品・鉄板・和瓦・煉瓦が出土している。

○No.2トレンチ

調査規模 4.0×1.0m

掘削深度 約0.7~1.8m

調査結果 現地表下約0.5~0.7mまでは近年の盛土整地層(1層)で、この直下に関東大震災直後に形成されたと考えられる層厚約0.1~0.3mの盛土整地層(2層)の堆積が認められた。盛土整地層(2層)直下には、煉瓦片・煉瓦塊が主体となる層厚約0.1~0.3mのガレキ整地層(3層)の堆積が調査区南東側に認められた。ガレキ整地層(3層)直下の現地表下約0.75m(標高約2.30m)以深には、発電所壁体と考えられる煉瓦造の帯状の構造物が検出された。煉瓦の積み方は、機械製煉瓦(長さ約225×幅110×厚さ55mm)を用いたイギリス積みである。調査区南東端部には本来的位置から遊離した白色タイルが付着した長方体コンクリート等が認められる。

遺物は、整地層(2・3層)から近代の磁器・タイル・磚子・煉瓦が出土している。

○No.3トレンチ

調査規模 4.0×1.0m

掘削深度 約0.75～0.95m

調査結果 現地地表下約0.55～0.8mまでは近年の盛土整地層(1層)で、この直下に関東大震災直後に形成されたと考えられる層厚約0.15～0.3mの盛土整地層(2a層)の堆積が認められた。盛土整地層(2a層)直下の現地地表下約0.75m(標高約2.08m)以深には、埠頭構内を走る道路と考えられる広い平坦面をもつコンクリート造の構造物が検出された。コンクリート厚は0.2m以上で、コンクリート打設下には下水道管等の埋設管が所在している可能性がある。出土遺物は煉瓦のみである。

○No.4トレンチ

調査規模 4.0×1.0m

掘削深度 約0.95～1.4m

調査結果 現地地表下約0.35～0.4mまでは近年の盛土整地層(1層)で、この直下に明治時代の埠頭埋立版築層(4a～4c層)の堆積が認められた。煉瓦片・煉瓦塊が主体となる層厚約0.25mのガレキ整地層(3層)は調査区南西端部にのみ堆積が認められた。調査区北東側の現地地表下約0.95m(標高約1.54m)では陶製の下水道管が検出された。また、調査区南西側の現地地表下約0.95m(標高約1.50m)では鉄製の薄い平板と波板で組まれた横断面方形の管路をもつ電線管と目される鉄板製管路が検出された。遺存状態が悪いが、長方体コンクリートで縁取りされた内側に複数の管路が埋設されていると考えられ、南西端部の管路内部は一部空洞化している状態であった。鉄板製管路内面には木片の付着が見られ、電線自体はさらに木箱に入れられていた可能性がある。いずれの管路も埠頭埋立版築層(4a層)より上から掘り込んで埋設されている。

遺物は、①層から近代の土器・ガラス製品・鉄釘・鉄板が出土している。

○No.5トレンチ

調査規模 4.0×1.0m

掘削深度 約0.95～1.4m

調査結果 現地地表下約0.55～0.85mまでは芝生腐植土(1a層)・近年の盛土整地・ガレキ廃棄層(1a～1e層)で、この直下に関東大震災直後に形成されたと考えられる層厚約0.05～0.5mの盛土整地層(2層)の堆積が認められた。この直下には明治時代の埠頭埋立版築層(4層)の堆積が認められた。建物・埋設管等の遺構は検出されなかった。

遺物は、盛土整地層(2層)から近代の磁器、埠頭埋立版築層(4層)から近代の銅貨が出土している。銅貨は腐蝕により表面が観察できない状態であるが、直径からすると二銭銅貨である可能性が高い。

○No.6トレンチ

調査規模 4.2×1.0m

掘削深度 約0.25～0.8m

調査結果 現地地表下約0.25～0.7mまでは直近及び近年の碎石層(1a・1b層)で、調査区中央から南東側の現地地表下約0.25m(標高約2.22m)以深には、第一号上屋の棟直下を通る中央柱筋の布基礎及び土間コンクリートと考えられる平坦面をもつコンクリート造の構造物が検出された。コンクリート厚は0.3m以上で、平坦面には煉瓦積の痕跡を残すモルタルの付着が観察される。さらに、調査区北西端部の現地地表下約0.6m(標高約1.9m)以深には、第一号上屋の棟直下を通る中央柱の独立基礎の一部と考えられるコンクリート製の構造物が検出された。上面隅部には丸棒鉄筋の遺存が認められ、コンクリート直下には松杭が打設されている可能性が高い。

遺物は、盛土整地層(2層)から近代のガラス製品・鉄釘が出土している。

○No.7トレンチ

調査規模 4.0×1.0m

掘削深度 約0.3～0.6m

調査結果 現地地表下約0.3～0.55mまでは直近及び近年の碎石層(1a・1b層)で、調査区中央から南西側の現地地表下約0.3m(標高約2.18m)以深には、第一号上屋の南西側面を通る側柱の独立基礎の一部、側柱筋の布基礎及び土間コンクリートと考えられるコンクリート製の構造物が検出された。一辺約0.9mを測る独立基礎の上面両隅部には丸棒鉄筋の痕跡が見られ、直下には松杭が打設されている可能性が高い。布基礎及び土間コンクリートの上面には煉瓦積の痕跡が認められる。建物外側に当たるコンクリート製構造物の南西側際には、排水桝の可能性のある一辺約0.7mの枠状の煉瓦積構造物が認められる。

遺物は、盛土整地層(2層)から近代の陶磁器・ガラス製品が出土している。

○No.8トレンチ

調査規模 4.0×1.0m

掘削深度 約0.85～1.3m

調査結果 現地地表下約0.4～0.85mまでは直近の碎石層(1a層)及び近年のガレキ廃棄層(1b層)で、この直下に関東大震災直後に形成されたと考えられる層厚約0.8m以上の盛土整地層(2層)の堆積が認められた。盛土整地層(2層)直下の現地地表下約0.85m(標高約1.60m)以深には、物揚場付帯の石造の階段がやや崩れながらも5段分検出された。踏面約30cm・蹴上約15cmを意図して構築されていると考えられる。階段上端の数段は近年の掘削により壊されたと考えられるが、階段下部は安全確保のため掘り下げができなかったものの、海水面付近の下端まで遺存している可能性がある。

遺物は、盛土整地層(2層)から近代の磁器・ガラス製品・鉄銚・C字状鉄製品が出土している。

3. 調査所見

今回の試掘調査は、試掘調査が実施可能な事業対象範囲のうち近代(明治・大正時代)の港湾施設の所在推定箇所に対して計8箇所のトレンチ(試掘溝)を設定し、調査を実施した。

この結果、No.1・2トレンチでは、関東大震災直後に形成されたと考えられる遺物を包含する整地層下に煉瓦造の発電所跡の北西側壁と施設内部が確認された。No.1トレンチでは下部に地下施設が所在している可能性がある。なお、No.2トレンチでは、上水道管の確認も意図していたが、これを検出できなかった。トレンチ北西の範囲外に所在している可能性がある。

No.3トレンチでは、発電所北西側を通る埠頭構内のコンクリート造の道路が確認された。なお、当該トレンチでは、下水道管の確認を意図していたが、これを検出できなかった。下水道管は、コンクリート造の道路下またはトレンチ北西の範囲外に所在する可能性がある。

No.4トレンチでは、当時の設備計画図には記載のない陶製の下水道管、電線管と考えられる鉄製管路が確認された。なお、当該トレンチでは、上水道管の確認も意図していたが、これを検出できなかった。トレンチ南西の範囲外に所在する可能性がある。

No.5トレンチでは、上水道管の確認を意図していたが、これを検出できなかった。後年に撤去されたか、トレンチ西の範囲外に所在する可能性がある。近代の遺物の出土は認められる。

No.6・7トレンチでは、第一号上屋(木造)の基礎と考えられるコンクリート・煉瓦積製の基礎が確認された。No.6トレンチで確認された基礎は、妻側柱に程近い棟直下の中央柱筋に当たり、No.7トレンチで確認された基礎は、桁側柱筋に当たると考えられる。独立基礎隅部には丸棒鉄筋が見られ、煉瓦積は布基礎・土間コンクリート上にのみ認められる。ちなみに、現横浜税関新港分館・第一港湾合同庁舎建設時(1960年代築)に発見・撤去されたコンクリート製基礎は第一号上屋の基礎に当たると考えられる。なお、当該トレンチでは、電線管の確認も意図していたが、これを検出できなかった。トレンチ南西の範囲外に所在する可能性がある。

No.8トレンチでは、物揚場付帯の石造の階段が確認された。階段上端数段は失われていると考えられるが、下部は海水面付近の下端まで遺存している可能性がある。また、南東側に隣接する石造の物揚場も遺存している可能性がある。

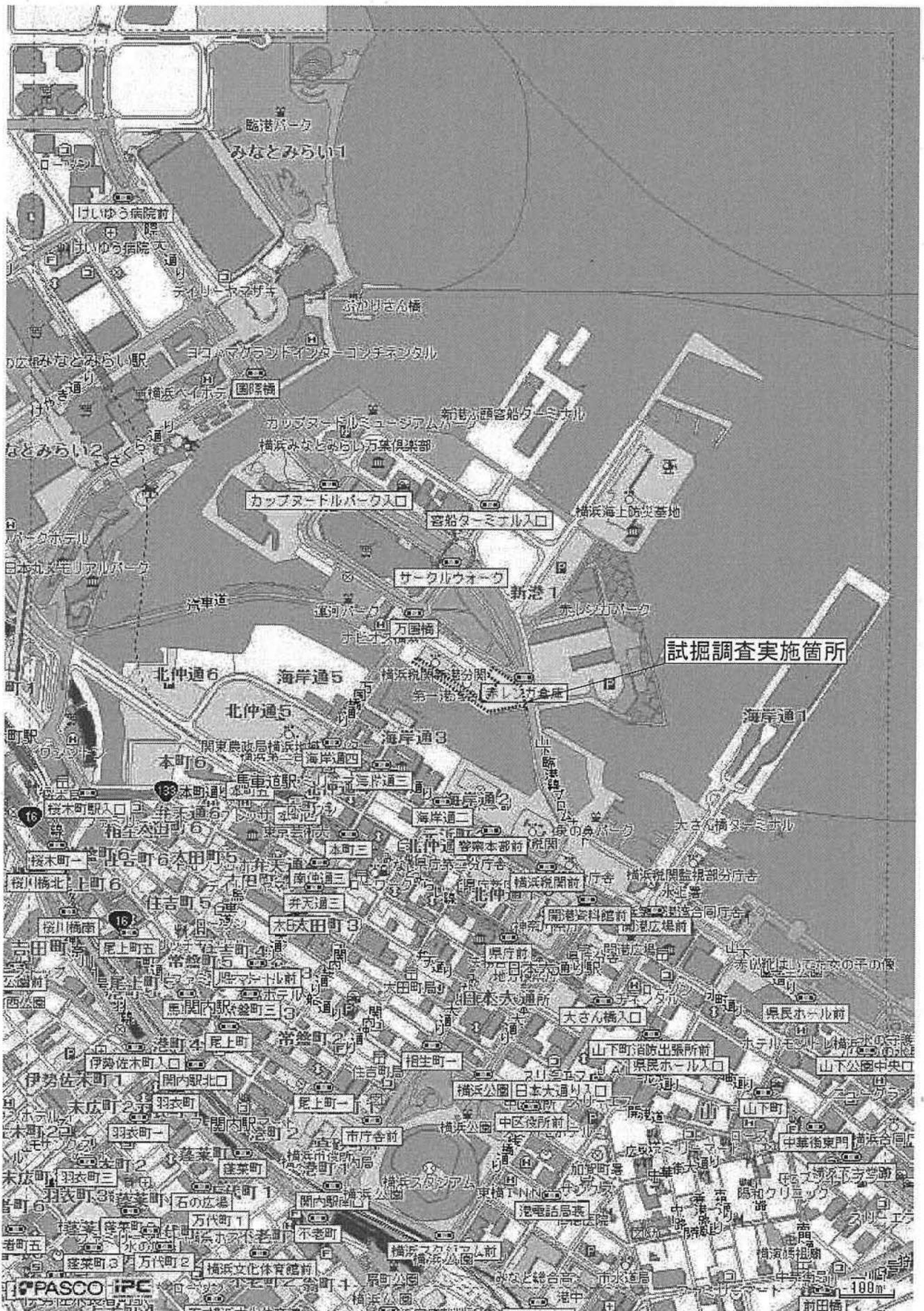
上述のように今回の試掘調査を実施した事業対象範囲には、近代(明治・大正時代)の新港埠頭港湾施設を理解するうえで重要と考えられる埋蔵文化財(遺構・遺物)が遺存しており、新築工事によりこれに大きな影響を与える場合は、事前の本発掘調査が必要になると判断される。ただし、現時点では新築工事の実実施計画が明示されておらず、また今回試掘調査を実施していない箇所に近代の埋蔵文化財がさらに遺存している可能性があることから、今後、実施計画が定まり次第、追加の試掘調査が必要となる場合はこれを行い、その後本発掘調査が必要となる範囲を協議・確定することとなる。新築工事に先立つ既存施設の解体工事については、平成28年12月26日付け文遺第597号「埋蔵文化財の所在の有無について(回答)」に示した取扱い(工事立会等)から変更はない。

なお、今回の試掘調査結果及び過去の工事状況を鑑みて、埋蔵文化財が遺存する及び存在していた範囲については、周知の埋蔵文化財包蔵地(横浜市中区No.33)として新規登録することとなるが、この範囲は今後の追加の試掘調査等により範囲が拡大する可能性がある。

また、本事業を民間事業者が所管することとなった場合、今後の試掘調査・工事立会等及び埋蔵文化財の取扱いに係る協議については横浜市教育委員会の所管となる。

(参考文献)

- 大蔵大臣官房臨時建築課 1915(大正4)『横浜税関新港設備概要』
大蔵大臣官房臨時建築課 1917(大正6)『横浜税関新設備報告』・『横浜税関新設備写真帖』
丹羽鋤彦 1918(大正7)「横浜税関海陸連絡設備」『土木学会誌』第4巻第3号
営繕管財局横浜出張所 1931(昭和6)『横浜税関陸上設備震災復旧工事概要』
運輸省第二港湾建設局京浜港工事事務所 1983(昭和58)『横浜港修築史』
横浜税関総務部税関広報広聴室 2006(平成18)『横浜港の生い立ちと税関』



試掘調査実施箇所位置図 (S=1/10000)

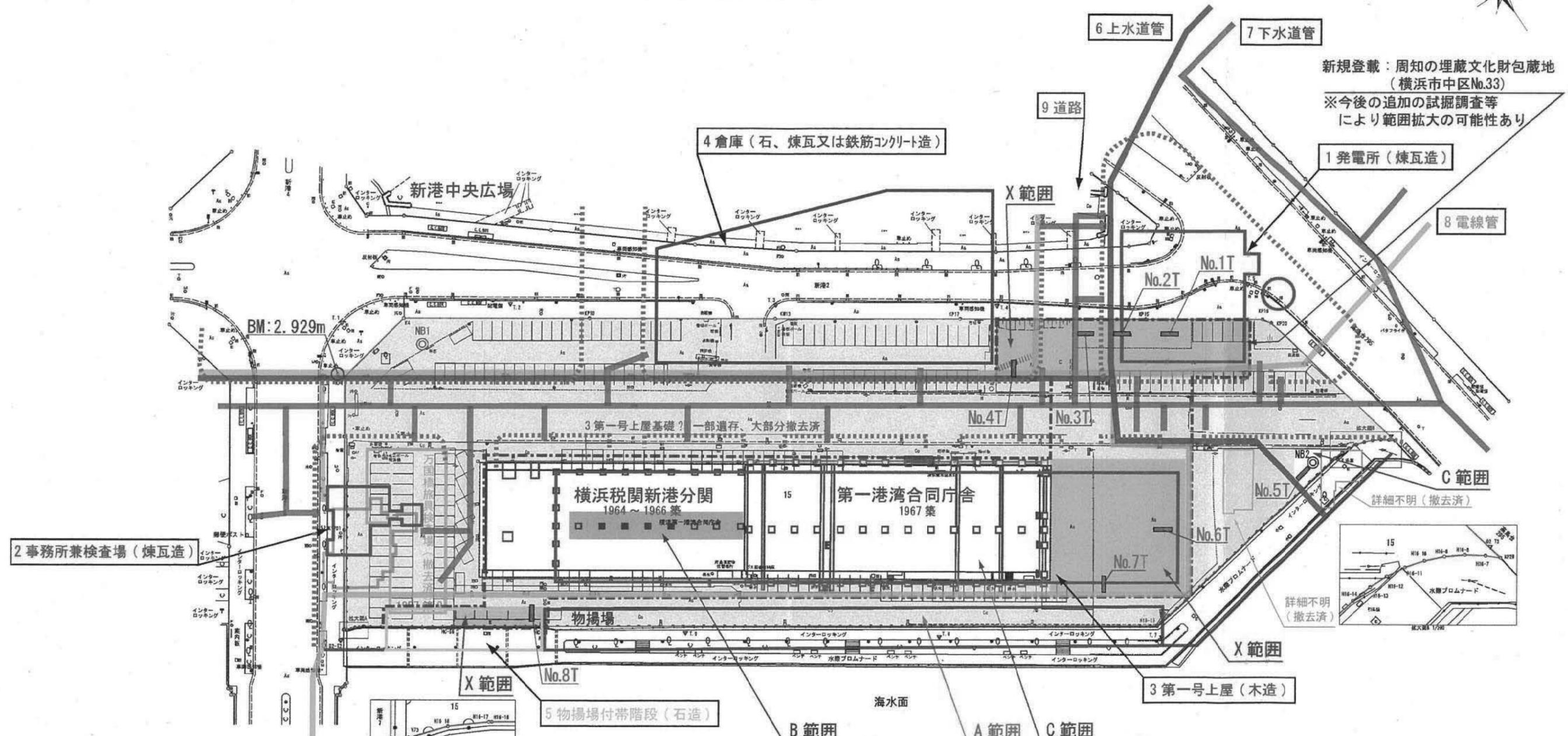
地図の使用にあつ
 (1)この地図は、年度
 (2)周知の埋蔵文化財
 ご使用の際は必ず



試掘調査実施箇所と周辺の埋蔵文化財包蔵地の状況 (S=1/10000)
 参考資料4-6 埋蔵文化財試掘調査(抜粋)

現況図

用地平面図 縮尺 1/1,000
 横浜市中区新港一丁目15番



新規登録：周知の埋蔵文化財包蔵地
 (横浜市中区No.33)
 ※今後の追加の試掘調査等
 により範囲拡大の可能性あり

2 事務所兼検査場 (煉瓦造)

4 倉庫 (石、煉瓦又は鉄筋コンクリート造)

1 発電所 (煉瓦造)

8 電線管

6 上水道管

7 下水道管

9 道路

3 第一号上屋基礎? 一部遺存、大部分撤去済

横浜税関新港分関
 1964~1966 築

第一港湾合同庁舎
 1967 築

物揚場

3 第一号上屋 (木造)

5 物揚場付帯階段 (石造)

- < 凡例 >
- X 範囲：工事計画が埋蔵文化財に影響を与える場合には本発掘調査が必要となる範囲
 - A 範囲：工事計画により埋蔵文化財の所在状況を確認するための追加の試掘調査又は本発掘調査が必要となる範囲
 - B 範囲：解体施工時に立会を実施し、状況を確認する必要がある範囲
 - C 範囲：施工中に埋蔵文化財と思しきものが発見された場合に、状況を確認する必要がある範囲

試掘溝 (トレンチ) 配置図及び埋蔵文化財の取扱い (S=1/1,000)

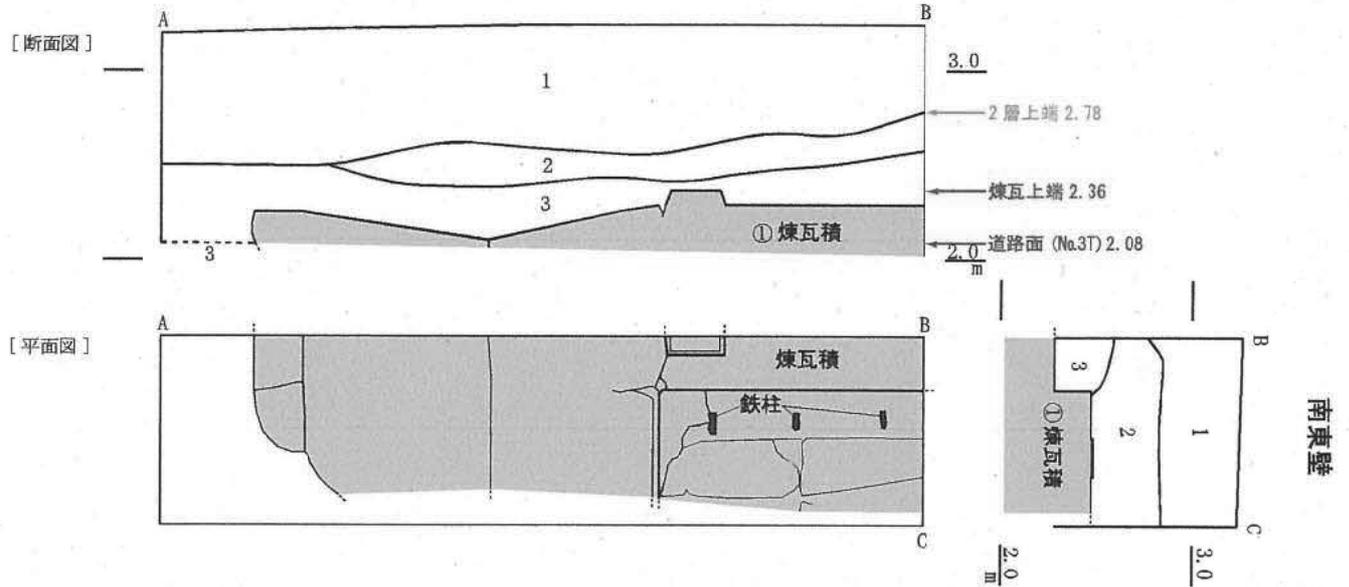
測量年月日	平成28年10月20日
作成年月日	平成28年10月24日
測地系	世界測地系(測地成果2011)
測量実施者	武田信真 測量士番号 H23-437号
作業機関	カツミテクノ株式会社
計画機関	財務省 関東財務局 横浜財務事務所

事業対象範囲に遺存している可能性のある近代埋蔵文化財の概要

No.	試掘 トレンチNo.	施設名称	施設構造	築造年代	施設備考
1	No.1・2T	発電所	煉瓦造	1907(明治40)～1909(明治42)	東外側に煙突付属。
2	(今回 対象外)	事務所兼検査場	煉瓦造	1913(大正2)～1914(大正3)	詳細不明。半地下構造、側壁周囲に乾葎が廻る。
3	No.6・7T	第一号上屋	木造(鉄筋コンクリート・煉瓦積基礎)	1906(明治39)～1911(明治44)	関東大震災後、跡地に横浜税関仮庁舎建設。
4	(今回 対象外)	倉庫	石、煉瓦又はコンクリート造	1918(大正7)～1923(大正12)?	詳細不明。民設倉庫。
5	No.8T	物揚場付帯階段	石造	1900(明治33)～1911(明治44)	詳細不明。幅20間(約36m)、階面1尺(約30cm)・ 蹴上5寸(約15cm)、段数26段?
6		上水道管	8インチ(20.32cm)鉄管。道路沿い本管は歩道地下3尺(約91cm)に埋設。 舗装道横断箇所は内寸幅2尺(約61cm)・内寸高2尺5寸(約76cm)の有 蓋式鉄筋コンクリート暗渠に敷設。	1908(明治41)～1910(明治43)	
7	No.4T	下水道管	本管は路面地下5尺6寸(約170cm)～12尺(約364cm)に埋設。本管内径 7寸(約21cm)～2尺5寸(約76cm)、支管内径4寸(約12cm)～6寸(約18 cm)。1尺5寸(約45cm)以上は鉄筋コンクリート土管、以下は常滑焼 土管。	1909(明治42)～1914(大正3)	
8	No.4T	電線管	地下3尺(約91cm)に埋設。木函に砂充填で敷設。舗装道横断箇所は 内寸幅2尺(約112cm)・内寸高1尺9寸(約58cm)の有蓋式鉄筋コンク リート暗渠又はU字形コンクリート土管に敷設。	1907(明治40)～1909(明治42)	
9	No.3T	道路	コンクリート造	1907(明治40)～1914(大正3)	

※平成28年12月26日付け文遺第597号「埋蔵文化財の所在の有無について(回答)」添付資料に加筆・修正

No.1T 北東壁



[No.1T 土層説明]

堆積層

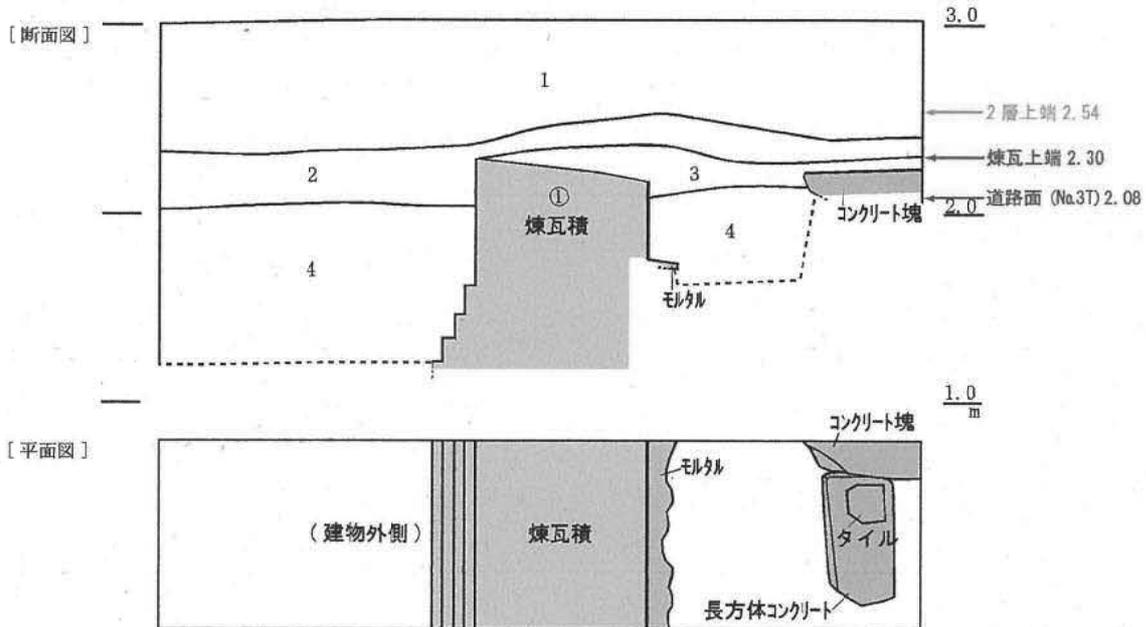
- 1層 近年の盛土整地層。碎石・アスファルト片・コンクリート殻・煉瓦片が混じる。
 2層 関東大震災直後の盛土整地層。煉瓦片・灰粒・炭化物粒・漆喰粒が多く混じる。
 3層 関東大震災直後のガレキ整地層。煉瓦片・煉瓦塊が主体。モルタル粒・漆喰粒が多く混じる。

発電所（煉瓦造）

- ①層 煉瓦積。表面は全面モルタル処理が行われており煉瓦の積み方は不明。

No.1T（試掘溝）平面図・断面図 [S=1/40]

No.2T 北東壁



[No.2T 土層説明]

堆積層

- 1層 近年の盛土整地層。碎石・アスファルト片・コンクリート殻・煉瓦片が混じる。
 2層 関東大震災直後の盛土整地層。煉瓦片・灰粒・炭化物粒・漆喰粒が多く混じる。
 3層 関東大震災直後のガレキ整地層。煉瓦片・煉瓦塊が主体。モルタル粒・漆喰粒が多く混じる。
 4層 建物基礎版築層。黄褐色泥岩塊が多く含まれ、締まり強い。埠頭埋立版築層と類似する。

発電所（煉瓦造）

- ①層 建物外壁の煉瓦積。イギリス積み（小口積みと長手積みを交互に段を違えて積む積み方）。

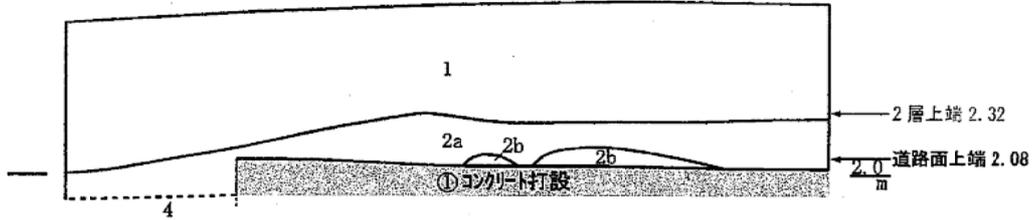
No.2T（試掘溝）平面図・断面図 [S=1/40]

4.0

No.3T 北東壁

3.0

[断面図]



[平面図]



[No.3T 土層説明]

堆積層

- 1層 近年の盛土整地層。碎石・アスファルト片・コンクリート殻・煉瓦片が混じる。
- 2a層 関東大震災直後の盛土整地層。煉瓦片・焼土粒・灰粒・炭化物粒・漆喰粒が多く混じる。
- 2b層 小砂利層。コンクリート直上に部分的に認められる。
- 3層 関東大震災直後のガレキ整地層。当試掘溝には所在しない。
- 4層 埠頭埋立版築層。黄褐色泥岩塊が多く含まれ、締まり強い。

道路（コンクリート造）

- ①層 層厚 20 cm以上のコンクリートが打設される。砂利が多く含まれる。

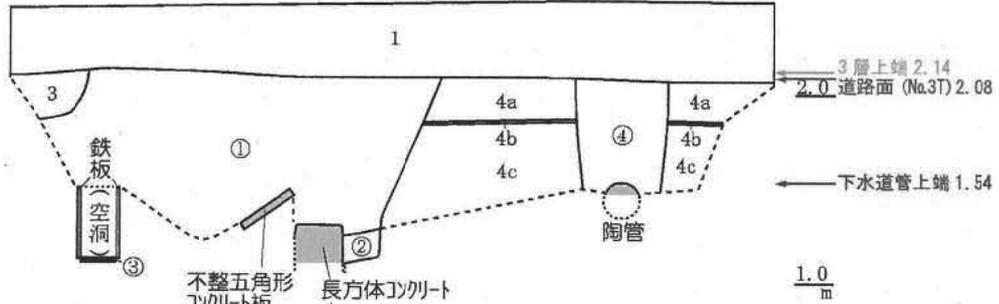
No.3T（試掘溝）平面図・断面図 [S=1/40]

4.0

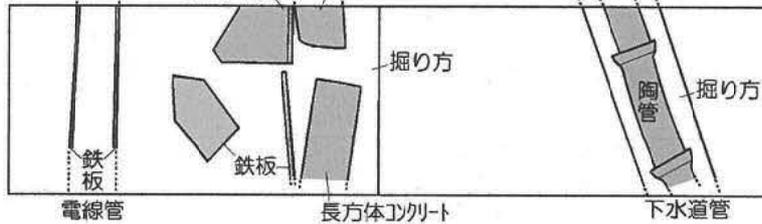
3.0

No.4T 北西壁

[断面図]



[平面図]



[No.4T 土層説明]

堆積層

- 1層 近年の盛土整地層。碎石・アスファルト片・コンクリート破・煉瓦片が混じる。
- 2層 関東大震災直後の盛土整地層。当試掘溝には所在しない。
- 3層 関東大震災直後のガレキ整地層。煉瓦片・煉瓦塊が主体。
- 4a層 埠頭埋立版築層。黄褐色。黄褐色泥岩塊が多く含まれ、締まり強い。
- 4b層 埠頭埋立版築層間の薄層。黒色。
- 4c層 埠頭埋立版築層。暗黄褐色。黄褐色泥岩塊が多く含まれ、締まり強い。

電線管

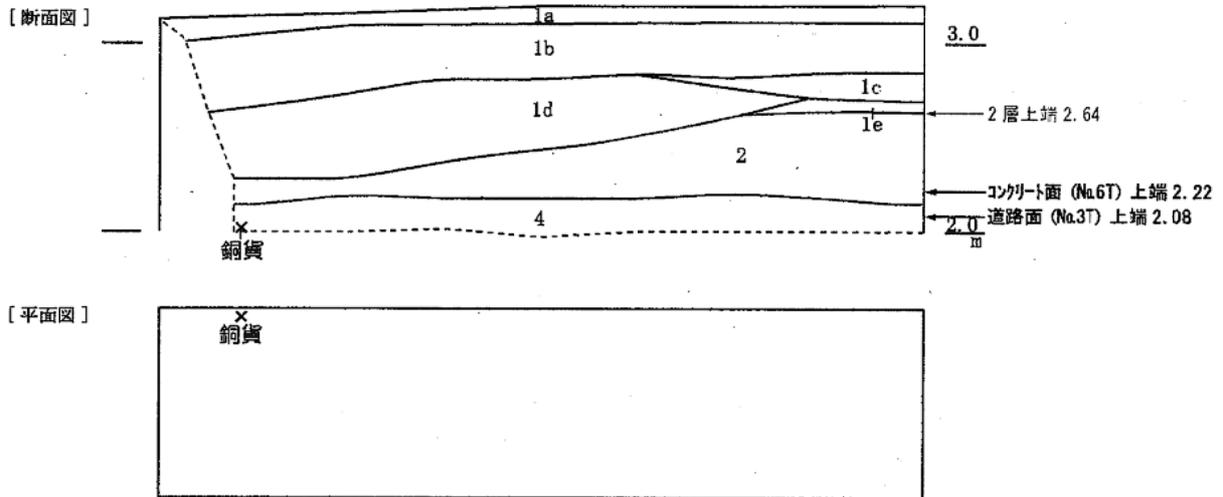
- ①層 電線管の掘り方埋土。褐色。
- ②層 電線管コンクリート施設外側の掘り方埋砂。灰色。
- ③層 電線管鉄製施設内側底面の黒色土。木材が腐食し、土壌化した可能性がある。

下水道管

- ④層 下水道管の掘り方埋土。暗褐色。

No.4T(試掘溝)平面図・断面図 [S=1/40]

No.5T 北壁



[No.5T 土層説明]

堆積層

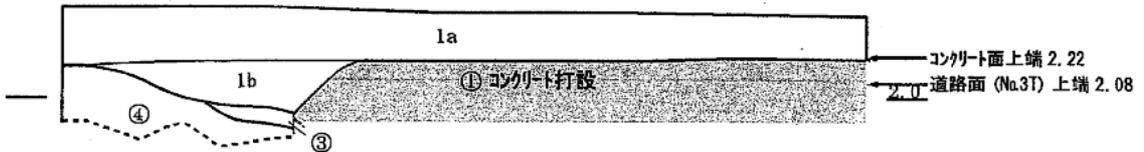
- 1a層 芝生腐植土
 1b層 近年の盛土整地層。碎石主体。
 1c層 近年の盛土整地層。黄褐色砂。
 1d層 近年のガレキ廃棄層。スレート主体。
 1e層 近年の盛土整地層。黒色土。
 2層 関東大震災直後の盛土整地層。薄層が重疊。焼土粒・灰粒・炭化物粒・漆喰粒が多く混じる。煉瓦片は認められない。
 3層 関東大震災直後のガレキ整地層。当試掘溝では認められない。
 4層 埠頭埋立版築層。黄褐色泥岩塊が多く含まれ、締まり強い。

No.5T (試掘溝) 平面図・断面図 [S=1/40]

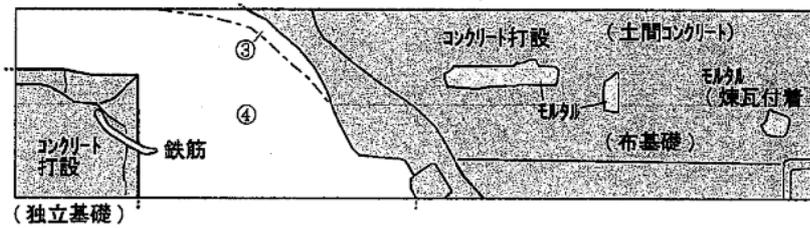
No.6T 北東壁

3.0

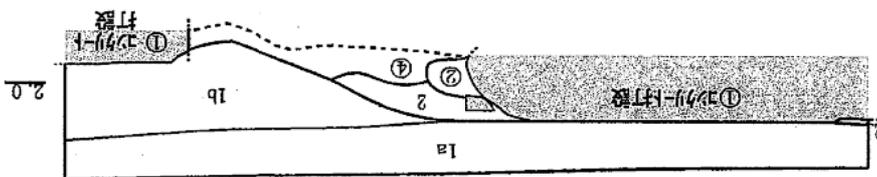
[断面図]



[平面図]



1.0



[図例]

3.0

霜丘

[No.6T 土層説明]

堆積層

- 1a層 現アスファルト舗装下の碎石層。
- 1b層 近年の敷地整地に伴う碎石層。
- 2層 関東大震災直後の礫土整地層。煉瓦片・焼土粒・灰粒・炭化物粒・漆喰粒が多く混じる。
- 3層 関東大震災直後のガレキ整地層。当試掘溝には所在しない。
- 4層 埠頭埋立版築層。当試掘溝では観察できない。

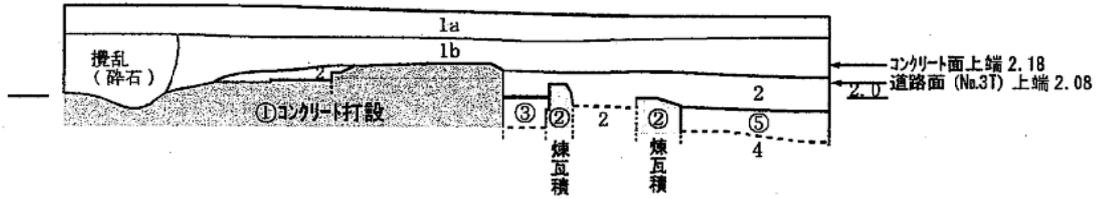
第一号上屋 (木造)

- ①層 建物基礎等のコンクリート打設。砂利が多く含まれる。独立基礎には丸棒鉄筋が認められる。布基礎上面には煉瓦積みが剥落したと目されるモルタル目地が部分的に認められる。
- ②層 褐色土 コンクリート粉と砂利が多く含まれる。①層が崩れて形成された土層と考えられる。
- ③層 白色土 石灰の可能性がある白色土。
- ④層 黄褐色土 大形の割栗石が多く含まれる。コンクリート基礎根固めの土層と考えられる。

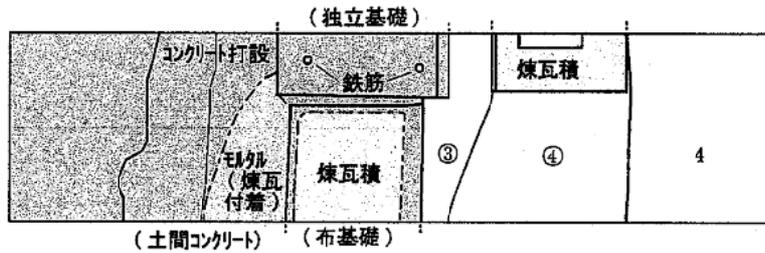
No.7T 南東壁

3.0

[断面図]



[平面図]



[No.7T 土層説明]

堆積層

1a層 現アスファルト舗装下の碎石層。

1b層 近年の敷地整地に伴う碎石層。

2層 関東大震災直後の盛土整地層。煉瓦片・焼土粒・灰粒・炭化物粒・漆喰粒が多く混じる。

3層 関東大震災直後のガレキ整地層。当試掘溝には所在しない。

4層 埠頭埋立版築層。砂礫が多く含まれ、締まり強い。

第一号上屋

①層 建物基礎等のコンクリート打設。砂利が多く含まれる。独立基礎には丸棒鉄筋が、布基礎上面には煉瓦積み
が認められる。布基礎際の土間コンクリート上面には煉瓦積み剥落したと目されるモルタル目地が面的に認められる。

②層 平面方形基調の煉瓦積。排水樹か。

③層 暗褐色土 コンクリート基礎の掘り方埋土。

④層 黄褐色土 黄褐色泥岩塊が多く含まれる。排水管下の根固めの土層の可能性はある。

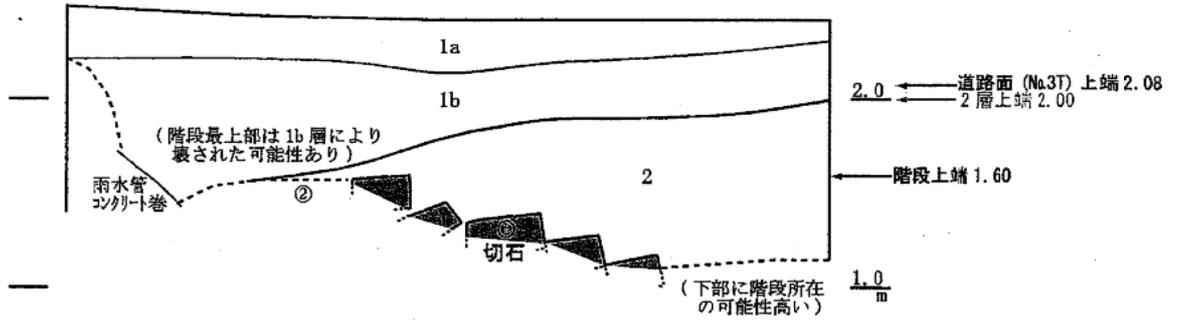
⑤層 暗褐色土 拳大の割栗石が多く含まれる。煉瓦構造物基礎の根固めの土層の可能性はある。

No.7T (試掘溝) 平面図・断面図 [S=1/40]

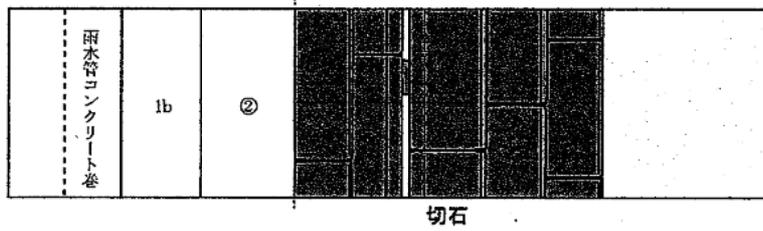
No.8T 南東壁

3.0

[断面図]



[平面図]



[No.8T 土層説明]

堆積層

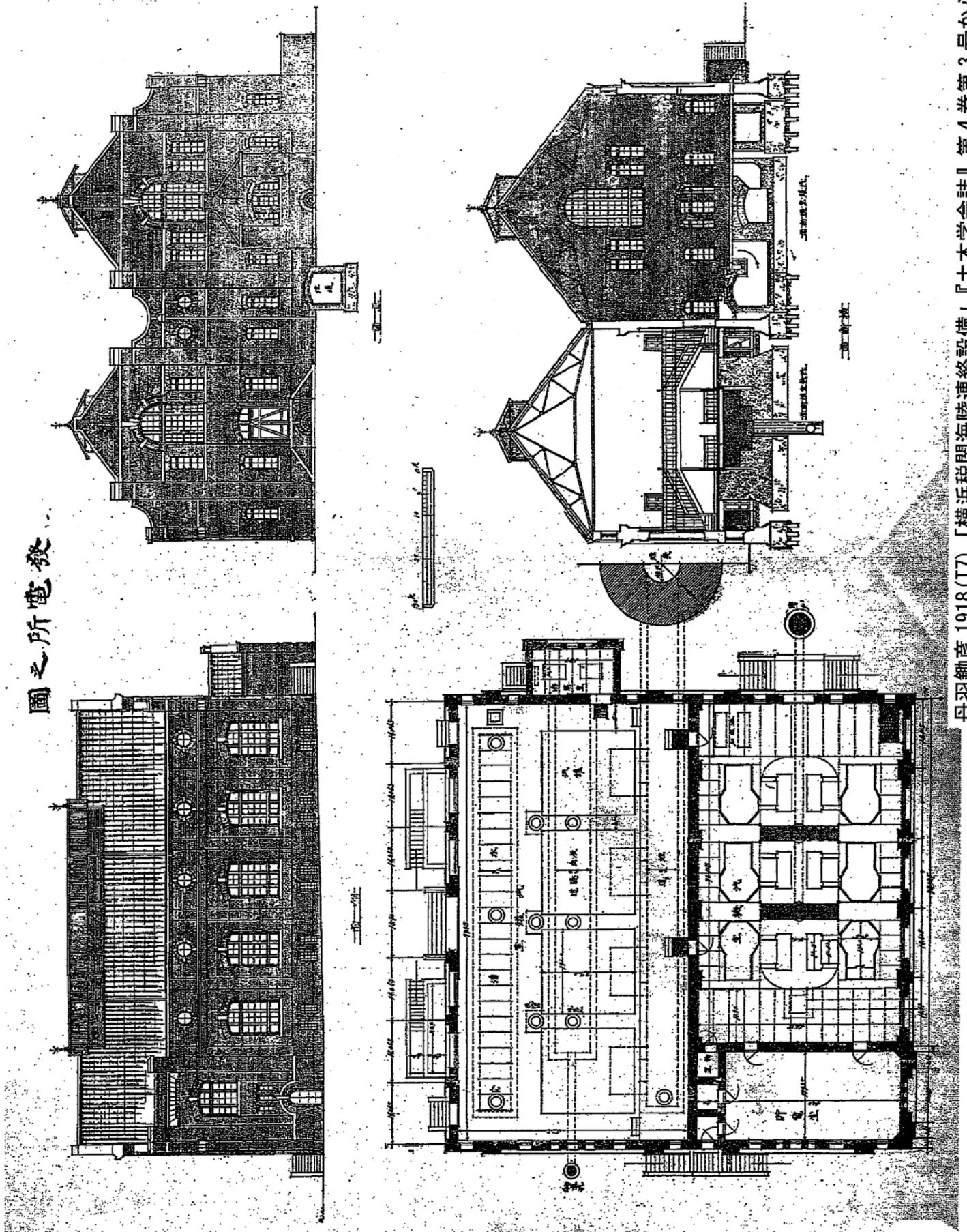
- 1a層 現アスファルト舗装下の碎石層。
- 1b層 近年のガレキ廃棄層。
- 2層 関東大震災直後の盛土整地層。煉瓦片・焼土粒・灰粒・炭化物粒・漆喰粒が多く混じる。
- 3層 関東大震災直後のガレキ整地層。当該試掘溝には所在しない。
- 4層 埠頭埋立版築層。当該試掘溝では観察できない。

物揚場付帯階段 (石造)

- ①層 直方体の切石。
- ②層 暗褐色土 粘性あり、締まり強い。階段下の根固めの土層の可能性ある。

No.8T (試掘溝) 平面図・断面図 [S=1/40]

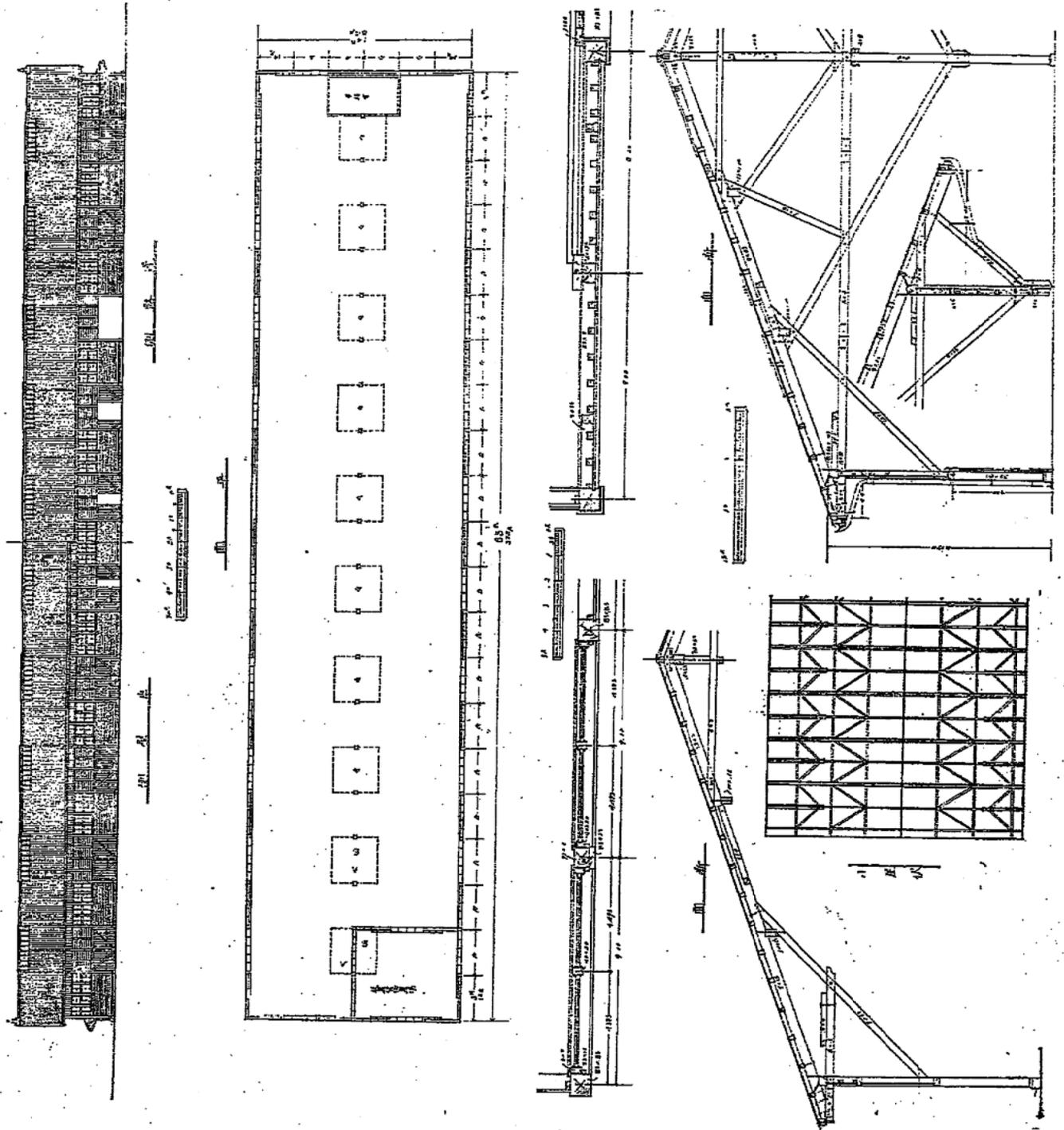
第十五圖 發電所之圖



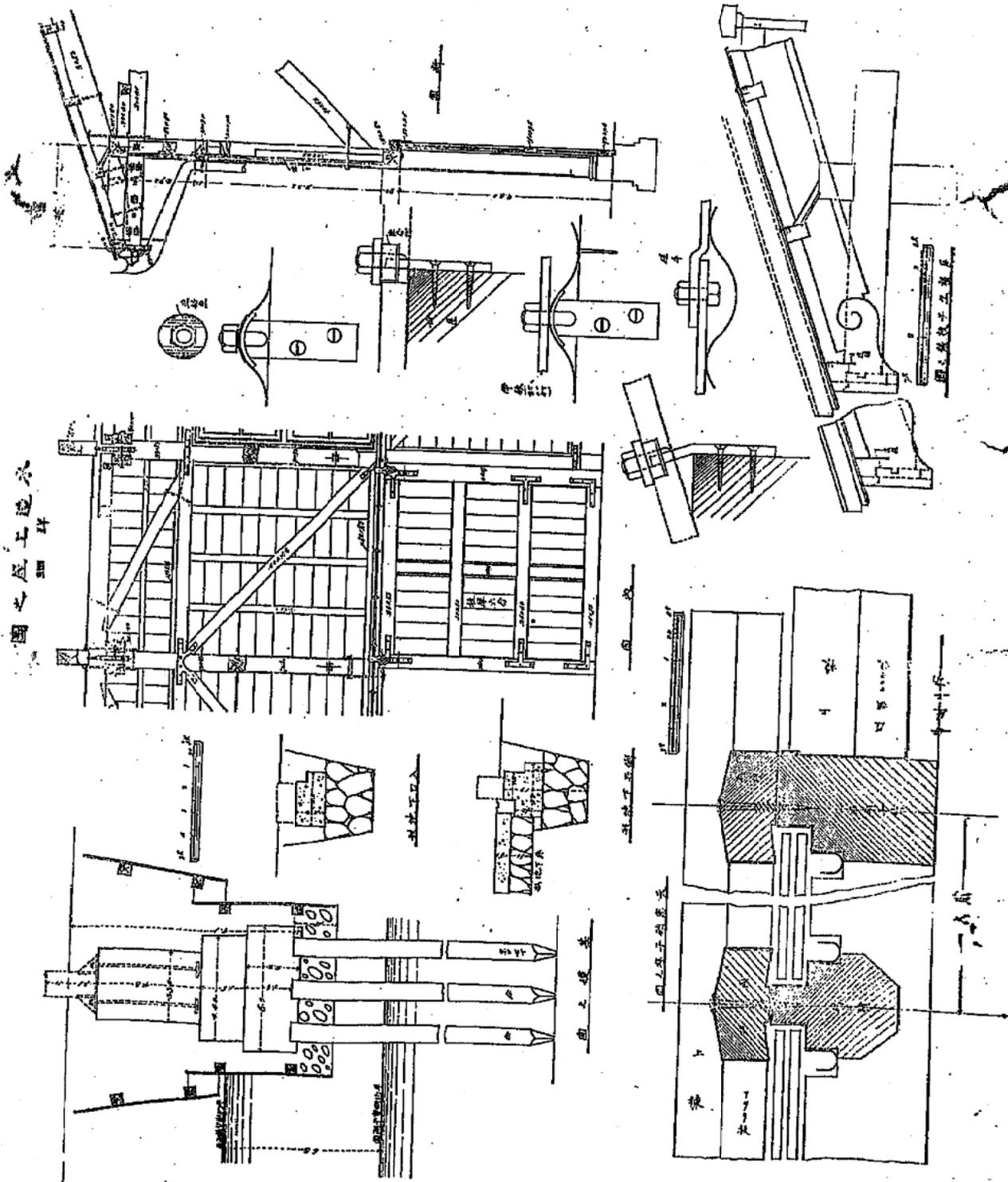
圖之所電發

木造上屋之圖

第八圖 木造上屋之圖



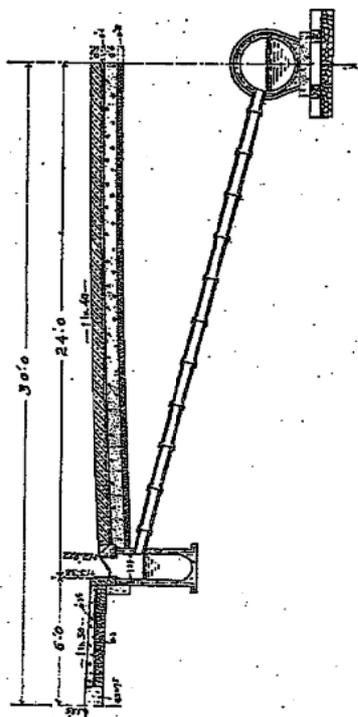
第九圖 木造上屋詳細圖



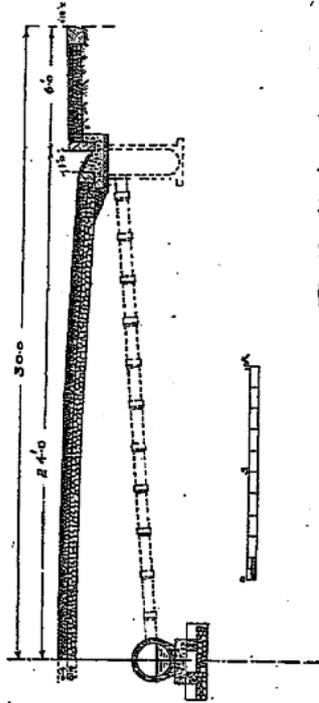
土木學會建築部編 建築圖樣集

木造上屋之圖

鋪石道断面圖

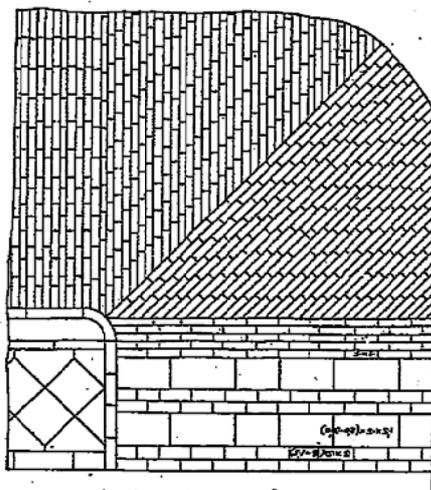


碎石道断面圖

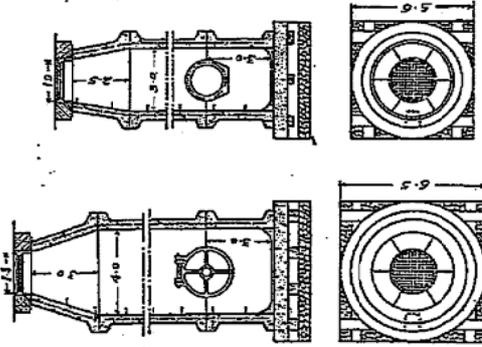


第十四圖 道路及下水之圖

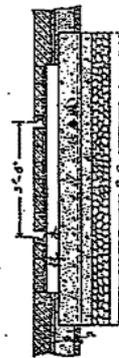
鋪石道平面圖



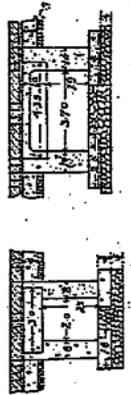
掃除材料断面圖



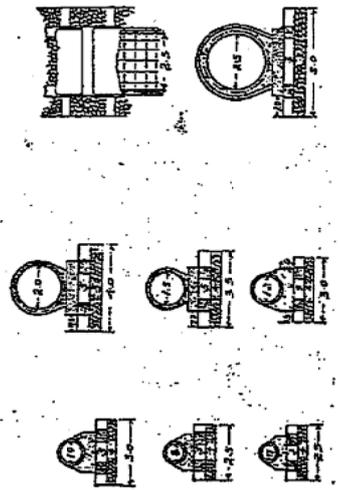
鐵道敷設區域断面圖



地中線暗渠



下水管



排水口

